



# 「学校再開の取組みについて」

教育総務課

	令和7年度				令和8年度				令和9年度			
	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期
設計	基本設計		実施設計									
工事					入札	工事						
既存校舎解体 (環境省)			解体									

令和10年4月開校(目標)

目指す学び  
双葉と世界が  
つながる学び

## 共育

様々なことにチャレンジし続ける力を育む学び

## 地域

町全体を学びの場とし、町のよさ力を感じ取る学び

## 世界

英語教育と国際理解教育を基盤とするグローバルな学び

## 復興

豊かな交わりを通して復興の担い手となる学び



目指す学校  
ふるさと創造の  
学校づくり

## わたしの学校

今日ずっといたい、明日また来たい 自分の居場所と思える学校

## みんなの学校

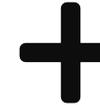
地域ぐるみで子どもたちの学びと成長支えるコミュニティスクール

## つながる学校

学校を飛び出し、社会や世界へ学びが広がるグローバルスクール

## そなえる学校

子ども、地域の安心安全を支える災害に強いレジリエントスクール



## 基本理念

まざる、まなぶ、かわる

### まざる

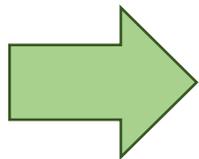
町民と地域のコミュニケーションを繋ぎ直し、多世代・多文化が「まざる」新しいコミュニティの実現

### まなぶ

多様な背景の子どもたちが集まる場所として、誰も取り残さず共に育つことができる「まなび」の実現

### かわる

このプロジェクトを通し変化すること、例えば新しい学びのあり方や、移住者を迎え入れることなど、「かわる」ことの実現



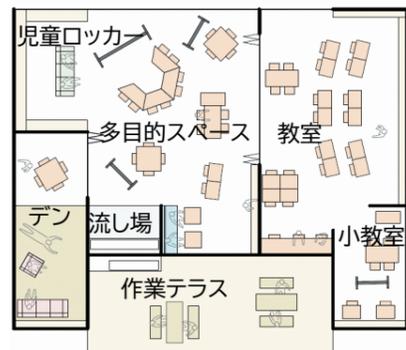
上記コンセプトを踏まえ、多様な外国語（英語）活動等ができる空間の構築を目指します



## ■各室・スペースの計画 報告書 5-2

### 教室まわり

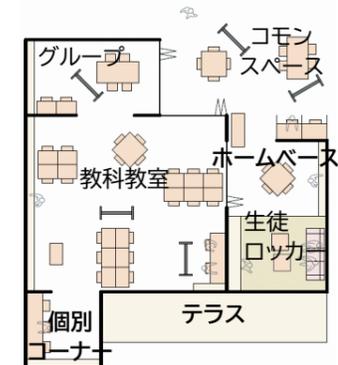
- 成長の節目を考慮し、縦のつながりによる帰属集団を「学年の区切り」として設定し、保育室や教室、特別支援教室のまとまりをつくる。
- 学年の区切りに合わせてトイレや流し場、更衣室などの生活スペースを配置する。
- 学年の区切りに応じて教室まわりの設えを変えることで、成長が実感できる施設環境とするとともに、コモンスペースやテラスなどの屋外空間を組み合わせる。また教室同士や教室と特別支援教室を直接つなげることで、年齢、学年の人数、子どもたちの状態に応じて柔軟に利用できるようにする。
- 教科担任制となる後期以降は教科センター方式を検討する。その場合、教科教室専用の教育空間を整え、教育空間とは別に生徒の生活拠点となるホームベースを設ける。
- 教室空間は大中小の空間を組み合わせた構成とすることで、それぞれの空間特性を生かした環境づくりが行えるようにする。



＜小学部・教室と多目的スペースのあるホームの例＞

前期の2学年合わせたホーム 最大40人

- 教室と多目的スペースは一体的に利用できる
- コーナーに小教室を設け、個別対応できる
- 多目的スペースの隣にデン（ほら穴のような小空間）を設け、カムダウン（気持ちを落ち着かせる）の場とする
- 児童の持ち物は2学年でまとめてロッカーコーナーに保管する



＜中学部・教科教室の例＞

後期の1学年のホーム 最大20人

- 教科教室とホームベースを組み合わせて学年の拠点をつくる
- 個別対応などが行いやすいコーナーを用意する
- 教室とホームベースを直接つなげ、一体的にも利用する

- こども園と義務教育学校前期段階の保育室・教室は外部空間とのつながりを大切に捉え、1階に配置することを原則とする。内と外の間半屋外テラスを設けて室内と段差のない連続した保育・教育スペースとする。



保育室と連続したテラス



テラスには流し台を設ける

### 学校図書館

- 地域開放利用に足る学校図書館として充実を図り、一般書を含めて3万冊程度の蔵書冊数が開架で閲覧できるようにする。
- 絵本・児童書、ティーンズ、一般書の開架書架スペースを設け、多様な人々が利用しやすいようにする。
- 無線LANや電源等を適所に整え、デジタル端末と一般書籍の両方に親しめるハイブリッドな図書スペースとする。
- 司書を常駐させることを検討するとともに、貸し出しや排架、レファレンス（調べもの相談）サービスを提供できるサービスカウンターを設ける。
- 閉架書庫を用意し、開架スペースの図書環境を常に良好な状態に整えられるようにする。

### 特別教室

- 教科の枠組みを超え、子どもたちが自ら創意工夫ある実験・実習に取り組めるように特別教室を再構成する。
- 子どもたちが学習の狙いや教科等の魅力を感じられるようにする。
- 特別教室は地域開放が行いやすいように配置や仕様を工夫する。地域活動に応えられる施設設備を用意する。
- 子どもたちの放課後活動の場としても利用する。
- 多様な人々が利用するための安全性を確保するために、十分な視認性を確保し、内外から活動の様子が分かりやすいようにする。



さまざまな創作活動ができるものづくり工房

### 屋外教育環境

- 校地の広さを活かし、多様な遊びや栽培、飼育活動が行えるようにする。
- 土や水、樹木等の自然環境に直接触れ、自然と一体となって遊べる園庭、遊び場を設ける。
- 自ら遊びを工夫したり、チャレンジしたりできる場、遊具を設ける。
- 生命のすごさや食物の大切さを体験できる菜園や観察園、動物飼育スペースを設ける。



起伏を活かした屋外環境づくり

### 地域連携スペース

- 地域と学校がつながり、協力して保育や教育ができる場づくりを行う。
- 今後以下のスペースを検討する。  
**地域協働:** 地域と学校の協働、コミュニティスクールの拠点となり、受付機能をもつ。  
**まち交流:** 地域の人々が気軽に訪れ交流、イベント会場ともなる。  
**文化伝承・創造:** 双葉町の伝統芸能や日本文化を活かせる活動の場。

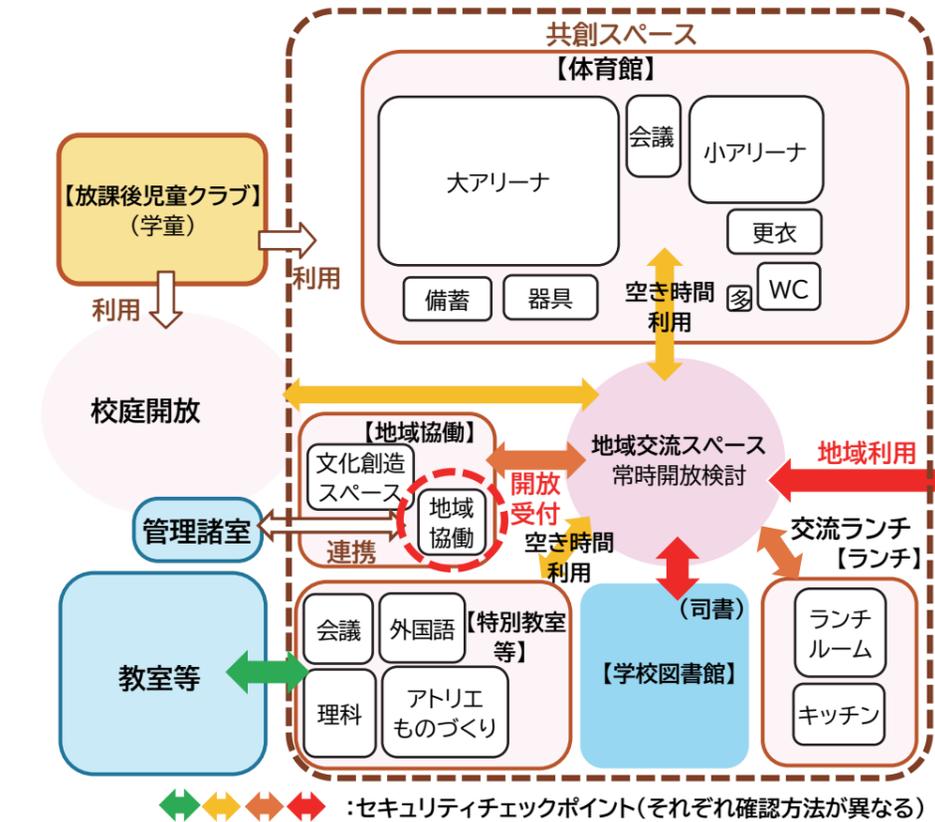


地域の伝統芸能を継承するホール

## ■地域と学校の共創空間 報告書 5-3

- 学校専用スペースと共創スペースをゾーニングで分け、その間の出入りを管理できるようにする。児童生徒は自由に移動できるようにし、開放利用者は専用スペースに入れないようにする。
- 放課後児童クラブは共創スペースのゾーンに配置し、放課後や休日に活用できるようにする。
- デジタル技術を活用し、施設予約の簡略化、予約状況の可視化等のシステム構築も検討する。
- 施錠・開錠の電子化や、遠隔制御システムの導入などにより開放管理の省力化を図る。

＜共創スペースの安全配慮ダイアグラム＞



## ■避難所計画 報告書 5-4

共創スペースに避難所機能を重ね、多様な避難者を受け入れられる安全・安心かつQOL(生活の質)が確保できる避難所とする。学校専用スペースとゾーンが分けられているので学校の早期再開をしやすい。

## ■地球環境との共生とサステナブルデザイン 報告書 5-5

- 長寿命化を図り、「100年使い続けられる」施設を目指す。
- 高気密・高断熱を施し、施設の基本的な環境性能を高める。
- 省エネ設備を導入するなどして省エネ化を図り、ZEB Readyを目指す。(ZEB Ready:ゼロエネルギー建築の実現に向けた基準を満たすことを示す認定制度)
- エコスクールとして、省エネの運用と効果が分かり、環境教育に活かせるようにする。

## ■教育DXと施設計画 報告書 5-6

将来の発展性を備えた基幹ネットワークを構築し、教育のデジタル環境整備に留まらず、施設管理や防犯対策、地域開放、省エネ対策など多岐に渡りICT/IoTを積極的に活かせる環境整備を目指すことが求められる。